

# ドル/円相場のトレード戦略

## ■ 中長期展望

昨年末のトランプ・ラリーによるドルの急上昇に対する調整が本年初から続き、2月第2週には111円台半ばまで下押しする動きとなりました。

### 【ドル/円 週足】



これは、年初からトランプ大統領が米国の貿易赤字に懸念を表明し、赤字の多くを占める中国や日本に対し批判を強め、ドル高をけん制する発言をしたことが背景にあります。

トランプ大統領は、彼の支持者の期待にこたえなければならず、そのためには米製造業の雇用を増やす必要があります。米製造業の雇用を増加させるためには、輸出の拡大が必要であり、それにはドル安が有効であるということです。

しかし、トランプ大統領が行おうとしている経済政策は、減税、規制緩和、インフラ投資の拡充という財政政策であり、これは米国の経済成長をもたらすとともに、FRBの利上げ継続を正当化することとなりますが、同時にドル高をもたらすものです。

過激な発言を繰り返す大統領がこの矛盾にどう取り組むのかという点に関し、市場の不透明感が高まり、疑心暗鬼が外国為替市場においてポジション調整を引き起こしていたといえますが、日米首脳会談の結果、日米のより強固な協調関係が確認されたことにより、政治的な圧力が加わる可能性が後退したことは重要といえます。

3月の米FOMCでの利上げが確実視されて、その後も利上げ継続への期待がドルの下値を支える要因となり、ドル/円は底堅い動きを続けるものと思われます。

しかし、更なる大きな上昇には、トランプ政権による経済政策の具体化が必要で、ドルの先行きが

# ドル/円相場のトレード戦略

トランプ大統領に振り回される展開が続きそうです。

## ■ 短期展望

先週は、週末の米雇用統計を控え 114 円を挟んだ小動きが続きましたが、週後半に入り、2 月の米 ADP 雇用統計が 29.8 万人増と事前予想 (18.7 万人増) を大幅に上回ったことを受け 115 円台に上昇しました。

注目の米雇用統計も総じて良好な結果となり約 1 ヶ月半ぶりに 115 円半ばまで上昇しましたが、その後は利食いに押され 114 円台半ばで週を越えています。

今週も、米国の利上げ継続がドルの下支え要因となりますが、一段の上昇には新たな材料が必要と思われ、今週議会へ提出される米国予算教書の内容が注目されます。

ただし、人事の遅れが続いていることもあり、提示される予算額が具体的かつ詳細な根拠に基づくものにならない可能性も高く、財政刺激策に対する期待が高まらない場合は上値追いも難しく、やや水準を切り上げたレンジ相場継続の可能性が高いように思われます。